

ようこそ

毎月1回1日発行

2025年8月27日

発行第12巻第8号

北インド版

Expatria
Mobility Redefined

すべての駐在員管理サービスを、
ワンストップで!

パンフレットはこちら



☎ +91-95991-98950

お問い合わせください

enquiry@expatria.in



YOKOSO
09 2025 SEPT VOL. 128
無料



FORMULA GROUP
Mobility Managed.®

悩んだら、
旅に出ようよ。

www.formulaindia.co.jp



マナン・アガルワル
(Manan Agarwal)

✉ manan.agarwal@krayman.com



菅原久子

✉ hisako.sugawara@krayman.com



ラジニッシュ・クマール
(Rajnish Kumar)

✉ rajnish.kumar@krayman.com



アंकール・ベイロリア
(Ankur Bairoliya)

✉ ankur.bairoliya@krayman.com

内部監査におけるテクノロジー活用 — インドの取り組みと世界の動向

世界各地で、内部監査(IA)はこれまでの受動的なコンプライアンスチェックの役割から脱却し、テクノロジーを駆使して積極的に経営を支える戦略的な存在へと変貌を遂げています。東京やデリーの取締役会でも、内部監査がデータ分析に基づく保証活動やリスクの予測管理、そして継続的な監視体制の構築に重点を置くようになりました。インドにおいても、規制環境の複雑化と国際的なビジネス基準の高まりに対応するため、組織は最新のテクノロジーを取り入れ、内部監査の役割を大きく進化させています。

1. インドの内部監査におけるテクノロジーの進化

かつてインドの内部監査は主に手作業で行われ、サンプリング手法に依存していたため、監査範囲や保証レベルに限界がありました。しかし、ビジネス環境の複雑化や規制の厳格化に伴い、多くのインド企業が内部監査の中核にテクノロジーを取り入れるようになっていきます。

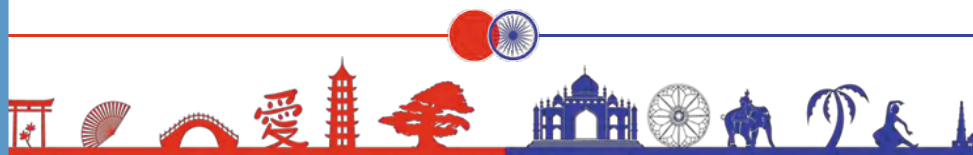
領域	従来の方法	インドにおける最新のテクノロジー活用例
取引テスト	サンプリングによる手作業のチェック	ERPと連携したデータ分析を活用し、全取引の100%を検証して包括的な監査範囲を確保。主なツールには CaseWare IDEA、Power BI、Tableau、ACL Analyticsなど
データ処理	手動でのデータ抽出やスプレッドシートの使用	自動化されたデータパイプライン、監査管理ソフトウェア、リアルタイムダッシュボードを利用して効率的にデータ処理を実施
リスク検知	過去の傾向を基にした週次のリスク評価	予測分析、プロセスマイニング、継続的な統制モニタリングを導入し、リスクを先取りして特定
監査の焦点	主にコンプライアンス重視	企業統治の要請に応じて、戦略的な経営インサイトやアドバイザー業務にも範囲を拡大

インドにおけるデータ分析ツールの導入は、監査の作業工程を大幅に効率化しました。これにより、監査人は取引の一部だけでなくすべての取引を精査できるようになり、利害関係者に対する保証の質が向上しています。さらに、定型業務の自動化によって手作業でのデータ準備にかかる時間が削減され、監査人はより深い分析や価値ある経営洞察の提供に注力できる環境が整っています。

人工知能(AI)や機械学習(ML)ツールへの関心の高まりは、インドが従来の枠を超えた監査分析の高度化を目指していることを示しています。まだ初期段階ではありますが、AIを活用した不正検知やリスク予測のパイロットプログラムが進められており、インドの監査チームの先進的な取り組み姿勢がうかがえます。

2. 世界の動向—内部監査における主要テクノロジー

世界的に見ても、内部監査部門は監査の正確性、効率性、そして協働を高めるために多様なテクノロジーを



積極的に取り入れています。インドの進展と並行して、多国籍企業は自動化、高度な分析技術、クラウドプラットフォーム、そしてブロックチェーンソリューションに大きく依存しています。

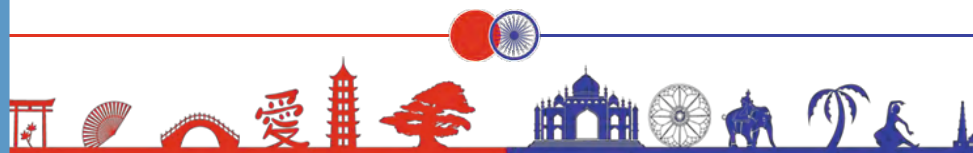
テクノロジー	世界の内部監査での活用例	インドにおける導入状況
ロボティック・プロセス・オートメーション（RPA）	取引データの検証など、繰り返し行われるルールベースの監査業務を自動化	大企業や銀行・金融・保険（BFSI）業界を中心に、初期段階で導入が進行中
AI・機械学習（ML）分析	大量データからの異常検知、リスク予測スコアリング、不正検出などを可能にする	パイロットプロジェクトが進行中で、監査の先見性向上に向けた活用に関心が高まっている
クラウド型監査プラットフォーム	地理的に離れたチーム間でのリアルタイムコラボレーションとデータへの円滑なアクセスを実現	パンデミック以降導入が加速。インドのデータプライバシーおよびローカリゼーション規制に配慮しながら運用
ブロックチェーン	取引記録の改ざん不可能性を提供し、特にサプライチェーンや財務監査の透明性を向上	主に貿易金融や物流分野で限定的に試験導入されており、潜在的な利点に対する認知が高まっている
継続的監査ツール	リスクをほぼリアルタイムで監視し、即時対応を可能にする	ERP連携や継続的統制モニタリングソフトウェアの支援を受け、特定の分野で導入が拡大中

これらのテクノロジーは、内部監査を単なる定期的なコンプライアンス業務から、継続的かつリアルタイムな保証提供者へと移行させるのに役立ちます。これにより、世界中の監査チームがより深い洞察を提供し、リスクの早期発見を迅速化し、業務効率を向上させることを可能にします。こうした動きは、インドにおいても積極的に取り入れられつつあるトレンドです。

3. インドの内部監査改革と国際的ベストプラクティスとの融合—インドは、世界の先進的な内部監査テクノロジートレンドを、自国のニーズ・インフラ事情・法規制と整合させるかたちで、段階的に取り込んでいます。

世界の最良事例	インドにおける適応状況
予測型AIによるリスクスコアリング	専門的なテクノロジー企業との協業により、インドのビジネス環境に特化した AIモデルの共同開発が進行中
ブロックチェーン対応の監査	物流、貿易金融、サプライチェーンなどの特定業界においてパイロットプロジェクトを実施し、透明性と監査性の向上を検証
フルサイクルの継続的モニタリング	ERPシステムおよび監査プロセスへの段階的統合により、継続的な保証機能の強化を図っている
クラウド主導の監査提供	インドのデータ主権およびプライバシー法に準拠しつつ、クラウド利用の受け入れが拡大している

インドの内部監査チームは、技術企業や外部専門家との連携の重要性をますます認識しており、これによって能力構築のスピードを加速させています。この協働的な取り組みは、スキル不足やインフラ面の制約といった課題の克服に役立つとともに、高度な技術の導入を促進します。さらに、このデジタルトランスフォーメーションにより、内部監査の役割は単なるコンプライアンスの監視者から戦略的アドバイザーへと変化しています。テクノロジーの活用により、監査人は積極的なリスク洞察を提供し、企業統治の強化に寄与することで、インドの内部監査機能は国際的な期待により一層沿ったものとなっています。

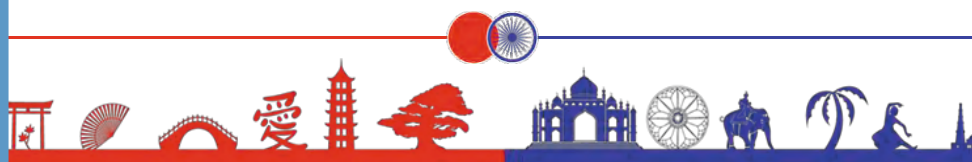


結論:

テクノロジーは、内部監査を人間の判断に代わるものではなく、より良い意思決定、迅速な対応、そして幅広い監査範囲を実現する強力な支援ツールとして再定義しています。

インドの歩みは、市場が従来の監査手法から最先端のテクノロジー主導の保証体制へと迅速に移行できることを示しています。グローバルな組織にとっての教訓は明確です。テクノロジーを活用した内部監査はもはや選択肢ではなく、複雑で相互に連結した現代社会における堅牢なガバナンスの基盤なのです。

クレイマンに関しまして: KrayMan Consultants LLP (KrayMan) は、ゲルグラムに本社を置き、インド全土の日系クライアントにサービスを提供している会計・アドバイザリーファームです。インド進出、会計、保証、税務、規制、トランザクション・アドバイザリー、M&A、法務、人事・給与サービスなどに特化しています。私たちは、勅許会計士 (CPA)、会社秘書、弁護士、MBAで構成されるプロフェッショナルチームです。詳細については、弊社ウェブサイト www.krayman.com/jp をご覧ください。サポートが必要な場合は、communications@krayman.com までご連絡ください。



発行部数
6,000部/毎月

